

年間授業計画

教科・科目		書道 I [2] 単位		対象学年・組	1学年 A・B・C・D・E・F 組
教科書 副教材		書 I (光村図書)	教科担任	平澤和泉	
指導目標		1. 楷書の用筆・運筆・結構法の習得及び応用 2. 楷書の自運力の充実 3. 楷書の書風の相違と用筆の関係の理解、並びに表現 4. 行書の用筆・運筆・結構法の習得及び充実 5. 行書による条幅作品の制作、並びに全体構成(並列構成・均衡構成)の理解			
学期	月	単元	予定 時数	具体的な指導内容・指導目標	評価の観点・方法
1 学期		楷書の学習 1、基本点画 2、臨書① (九成宮醜泉銘) 3、臨書② (蘇孝慈墓誌銘) 4、自運 5、臨書④ (選択課題) (鄭羲下碑・九成宮醜泉銘・孔子廟堂碑)・雁塔聖教序・顔氏家廟碑・牛橛造像記・樂毅論)	26	1、書体の変遷(漢字の五書体と仮名の変遷を知る。) 2、用具・用材の特性(書特有の用具用材の特徴を知る。) 3、用筆と運筆法の理解及び習得(直筆と側筆の相違) 4、楷書の基本点画の習得(縦横・左右払い) 5、楷書の基本結構の習得(縦構成の字巾の取り方の理解) 6、楷書の結構法の習得①(偏旁の基本的造形法の理解と習得) 7、蘇孝慈墓誌銘(書道史上の位置・書風等を知る) 8、楷書の結構法の習得②(結構法の共通性の理解と習得) 9、楷書の自運力の充実(結構法の共通性を生かし、自分で課題をまとめる力をつける。) 10、楷書の書風の相違と用筆の関係の理解並びに表現(書風の違う書体を学び用筆・結構の相違を理解し、表現の巾を広げる。) 11、作品構成の方法の理解と表現 12、楷書の書風の相違と用筆の関係の理解並びに表現(書風の違う書体を学び用筆・結構の相違を理解し、表現の巾を広げる。)	参加：目標を持ち、真剣な態度で学習したか。 活動：基本的技術が習得できたか。 常に向上心をもてたか。 定着：文字の造形法を理解し、表現できたか。 手本となる古典から何かを感じ、創造的に表現できたか。 その他：
2 学期		行書の学習 1、基本用筆 2、臨書① (集字聖教序)	26	1、作品構成の方法の理解と表現(作品をまとめ、並列構成とここまでの学習の成果を確認する。) 2、行書の成立と特徴の理解及び用筆と運筆法の習得(楷書の用筆・運筆法との相違を理解、筆の回し込み・返し等の習得)	同上
3 学期		3、臨書② (蘭亭序・風信帖・祭姪文稿・争坐位文稿・蜀素帖・赤壁賦) 4、条巾作品	18	1、用筆・運筆法の充実(筆の浮沈を利かせ、回し込みと返しを正確に使って筆脈をとり、筆路を正確に読み取りながら運筆するリズムの習得) 2、作品構成の方法の理解と表現(条巾作品を制作することで、均衡成を学習する。筆脈の貫通・文字の大小・線の太細等の変化による行書の流動美を感得する)	同上